



教育目標 英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

中野中学校だより

令和4年10月31日(月) 発行 第6号

『小平奈緒選手物語 その2』

校長 田代 雅規



2018年に韓国の平昌で行われた冬季オリンピックで、日本は13個のメダルを獲得しました。日本の冬季オリンピック史上、最多の記録となりました。

その時のスピードスケート女子500mの話が中学生の道徳の教科書に取り上げられています。

<東京書籍 新しい道徳3> より一部紹介します。

小平選手は、それまでにも二度、冬季オリンピックに出場していました。しかし、得意の500mは、バンクーバーで12位、ソチでは5位に終わり、メダルには届きませんでした。その二大会の500mをどちらも制したのが、韓国の李相花選手でした。

実は、小平選手と三歳年下の李相花選手は、小学校のときからの知り合いでした。小さなころから、それぞれの国で世界の挑戦を目指して練習を重ねていた二人は、小平選手の出身地である長野県と韓国の間で行われたジュニアの交流試合に、ともに出場していたのです。2006年、大学生だった小平選手が、初めて日本代表として出場したワールドカップ大会。この500mで優勝したのは李選手で、11位だった小平選手とのタイム差は、1秒以上でした。わずか1秒ですが、スピードスケートの世界では、簡単には越えられないかへのようなへだたりです。その後も長い間、小平選手にとっての李選手は、なかなか手の届かない遠い目標であり続けました。

しかしその一方で、大会のたびに世界各国で出会う二人は、いつしか仲の良い友達になっていきました。試合での転倒が続いてスケートがこわくなり、一人で泣いている小平選手の元に李選手がやってきて、いっしょになみだしたこともありました。おたがいの自宅を訪ね合って、ともに過ごすこともありました。

二度の冬季オリンピックに出場しながら結果を出せずにいた小平選手は、2014年のソチオリンピックの後、スケートの強豪国、オランダに留学することを決意します。そしてその年の11月、小平選手は、ついに500mで李選手をおさえて、悲願の初優勝を果たしました。留学先のオランダから、李選手の母国である韓国に遠征しての、ワールドカップ大会でした。このとき、すぐにオランダにもどらなければならない小平選手を気づかって、李選手は空港へのタクシーを手配しました。

こうして2年間の厳しいオランダ留学を終えた小平選手は、体格も精神力も、格段にパワーアップし、2017年に再び韓国で行われた世界距離別選手権大会の500mでは、日本記録を出して

優勝します。翌年の平昌オリンピックと同じ会場で開かれたため、「プレ・オリンピック」ともよばれたこの試合で、李選手は、小平選手と0秒35の差で、2位となりました。

2018年2月、ついにオリンピックの開幕です。小平選手は、日本の選手団の主将として韓国入りしていました。大本命である500mの試合に向けて、より距離の長い2種目にも出場する戦略を立てていた小平選手は、初戦の1500mで目標どおりの6位入賞、1000mでは堂々の銀メダルと、順調にペースを上げていきます。

一方の李選手は、オリンピック3連覇をかけて、出場種目を500mだけにしぼる、対照的な作戦を立てていました。国中の期待がかかる中、注目のライバル対決として、小平選手と比べられることもしばしばでした。韓国のメディアの質問を、「頑張るから、あの選手と比べないで。」と、笑顔でかわすひと幕もありました。

そして、女子500m。第14レースをすべり終えた小平選手は、大きな歓声に包まれます。オリンピック新記録という素晴らしいタイムに、観客の興奮が収まりません。しかし、小平選手は口もとに指をあてるしぐさで、「次のレースのため、どうか静かに。」とアピール。第15レースですべった李選手は、小平選手と0秒39差のタイム差で、2位となりました。最終の第16レースの選手はトップ争いには加われず、ここでスピードスケート日本女子、初の金メダリストが誕生したのです。

レース後に、日の丸を羽織って、観客に応える小平選手。彼女は、韓国の太極旗を手に泣き崩れる李選手を見つけると、近づいてしっかりとだきとめました。

「チャレツソ！」これは、小平選手が李選手から習った韓国語。「よくやったね！」の意味です。

続けて英語で「今でもあなたを尊敬している。」と、声をかけました。李選手も、「ナオこそチャレツソよ。」と、言葉をかえしました。そのまま、たがいをたたえ合いながらリンクを回る二人に、客席からは、おしみのない拍手と歓声が注がれました。

(一部略)



10月22日(土)、スピードスケートの全日本距離別選手権が長野市のエムウェーブで行われ、女子500mは現役最後のレースとなった小平選手が37秒49で8年連続13度目の優勝を果たしました。会場には、小平選手の最後の滑りを見届けようと6085人の観客が集まり、会場には「ありがとう」の文字がありました。小平選手もサプライズとして、被災農家が栽培したリンゴ1000個を来場者にプレゼントしました。

27日(木)に行われた引退会見では、「山あり谷ありのジェットコースターのような日々だったが、そのたびに多くの人に支えていただいて、一度も後ろを振り向くことなく、前を向いて歩いて来られました。」と競技生活を振り返りました。そして、今後は「講演やイベントの仕事しながら、皆さんの近くで地に足をつけた活動をしたい。『知るを楽しむ』と『唯一無二の自己表現』という、これまでと変わらないテーマを探求したい。」と話しました。

いよいよ11月5日(土)に小平奈緒さんが、中野中で10周年記念公演をしてくださいます。中野中生に勇気や希望を与えてくれる素晴らしい話がきけると思います。楽しみです。

10周年記念合唱コンクール

中野 ZERO ホール

10月28日(金)に中野 ZERO ホールで3年ぶりの合唱コンクールを実施しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、2年間中止となり、1年生だけでなく、2・3年生にとっても初めての合唱コンクールとなりました。マスクをしての合唱練習や突然の伴奏者の怪我等、アクシデントがありましたが、どのクラスも協力してよく頑張りました。

今年度は、中野中の開校10周年記念合唱コンクールでしたが、これから20周年、30周年と未来につながる素晴らしい合唱ができました。



1年C組



1年C組

課題曲 「変わらないもの」

自由曲 「HEIWAの鐘」



1年A組



1年A組

課題曲 「変わらないもの」

自由曲 「旅立ちの時」

1年B組



1年B組

課題曲 「変わらないもの」

自由曲 「COSMOS」

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、保護者の方の参観も学年の合唱のみの鑑賞として入れ替え制で実施しました。平日の開催にも関わらず、合計300名近くの保護者の方に鑑賞いただきました。3年生の合唱や有志合唱、吹奏楽部等、最後まで全部聞きたかったとご意見をいただきました。来年は、10月28日(土)に中野 ZERO ホールでの実施を予定しています。土曜日開催となりますので、入れ替え制ではなく多くの方に鑑賞していただきたいと願っています。



2年A組



2年B組



2年C組

2年A組

課題曲 「僕らの奇跡」

自由曲 「時の旅人」

2年B組

課題曲 「僕らの奇跡」

自由曲 「輝くために」

2年C組

課題曲 「僕らの奇跡」

自由曲 「明日へ」



<1・2年生の保護者の方の感想>

- マスクは、残念ですが開催できたことをありがたく思います。行事があると子どもたちも前向きに明るくなっていくと思います。今後も少しずつ行事ができることを願います。また、子どもたちの頑張っている姿が見れて良かったです。
- 1年生は、合唱にはまだまだ伸びしろがあるものの、みんな一生懸命歌っている姿に心を打たれました。スライドで練習の様子などが見えたのも良かったです。子どもたちに対する先生方の日々の指導に感謝します。様々な皆様のご尽力で開催できたことも良かったですと思います。
- 生徒さんたちが、一生懸命練習してきたのが伝わってきました。どのクラスも男女の声のバランスが良く、レベルの高い発表でした。充実した時間をありがとうございました。
- やはり全学年の合唱が見たいです。クラス紹介がとても良かったです。新型コロナウイルスの状況にもよりますが、合唱コンクールは毎年やってほしいです。先生方がそれぞれの担任するクラスの合唱を見守る目が温かくて、ものすごく元気をもらいました。
- 立派なホール舞台に立てて良い経験になれたと思います。コロナ禍でもあり、各学年ごとの保護者鑑賞となり、観客が少ない感はありましたが、生徒さんの緊張感（プレッシャー）も程よいのかなと思いました。楽しい時間をありがとうございました。中野 ZERO ホール前の中野公会堂で行われた私の中学時代の合唱コンクールを思い出しました。

1・2年生の合唱の後、昼食時間となり午後からは3年生の合唱コンクールとなりました。
 昼食後には、各クラスがホールのホワイエで練習していました。



3年B組

3年B組

課題曲 「大地讃頌」
 自由曲 「ほらね、」



3年C組

3年C組

課題曲 「大地讃頌」
 自由曲 「虹」



3年A組

3年A組

課題曲 「大地讃頌」
 自由曲 「証」



有志合唱



吹奏楽部演奏



3年生の合唱の後に有志による合唱を行いました。東北の震災の後につくられた「花は咲く」と自由と平和を求めた「聞こえる」の2曲を歌いました。

また、有志合唱のメンバーは、翌日29日(土)に区役所前で行われた『なかの東北応援まつり』でも合唱を披露しました。吹奏楽部は、夏のコンクールで演奏した「西遊記～天竺への道」と「ピースサイン」の2曲を演奏しました。



1先生から3年生まで、初めての合唱コンクールでしたが、準備や当日の司会進行、後片付けまで、合唱コンクールの実行委員が最後まで本当によく頑張りました。



<3年生の保護者の方の感想>

■3年生は初めての舞台、練習を重ねた子どもたちの歌声に感激しました。1年生は素直な声、3年生は声変わりしている男子もいて、重層感が出ていました。みんなで成し遂げたこの合唱コンクールの思い出はきっと一生の良い思い出となるでしょう。

素敵な演奏をありがとうございました。

■有志合唱、先生と生徒と一緒に歌っていたのがとても良かったです。

吹奏楽部の演奏もとても素晴らしかったです。

■クラスとクラスの合唱の合間がとても静かで大変良かったです。3年間で初めての合掌コンクールが無事に開催できて、子どもたちも喜んでいると思います。ありがとうございました。

2年生の行事変更のお知らせ



<後期の2年生の行事日程変更のお知らせ>

	変更前	変更後
スキー移動教室	令和5年 2月13日(月)～15日(水)	令和5年 3月5日(日)～7日(火)
社会貢献活動調査	令和4年 12月18日(金)	令和5年 1月27日(金)

10月18日(火)の保護者会でお知らせしましたが、2年生のスキー移動教室を上記の日程に変更します。理由は、スキー移動教室終了の1週間後に3年生の都立の一般入試があるためです。

今後、2月には新型コロナウイルス感染症の第8波の感染やインフルエンザの流行が予想されており、移動教室により感染が拡大した場合、3年生にも大きな影響があると考えたからです。

3月1日(水)に都立高校の発表があり、本校の定期テストも3日に終了します。昨年は、スキー教室が実施できませんでしたので、この時期なら影響なく実施可能と考えました。